

モーツアルト盤を聴く(124)(HP 収載)
—最新アナログシステムでの試聴(124)—

1. 始めに

前報(123)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

試聴システムは仮想アースに加えて、スピーカーアキュライザーSPA-7 が加わっています。さらにスピーカーアキュライザーの接続をバナナプラグに置き換え、電解コンデンサーを追加し、電磁波吸収テープ NRF-005T をバナナプラグに巻いています。音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回はピアノの小品曲集です。

ARTIPHON ART 8506

モーツアルト ピアノ曲集

Peter Zeugin(ピアノ)

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

ARTIPHON 盤ということですが、録音特性が不明ですので、ZANDEN Model 120 の条件を変えながら試聴していきます。RIAA、正相、第4時定数 High から聴き始め、まず正相から逆相にしますと音の焦点があってきました。イコライザーカーブを替えていきますと、TELDEC のバランスが取れているようなので、TELDEC、逆相、第4時定数 High で聴いていきました。

ピアノ曲の小品が8曲収録されていますが、いずれも教則本の曲のような感じで、小粋にまとまった曲です。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E、スピーカーアキュライザーなどの総合的な効果により、上記の音楽の特徴がよく把握できます。

以上/